

農地利用最適化の推進

農委会名：熊本市農業委員会

1 地域の概要

熊本市は、県の中央部にあって、西北部は金峰山地、北部は台地、東部は阿蘇山地に囲まれている総面積390km²の都市である。有明海に注ぐ、坪井川、白川、緑川の3水系の下流部に形成された熊本平野が広がり農作に大きな効果をもたらしている。

豊かな自然環境を活かして、米、野菜、果樹、花き、酪農等、多種多様な農産物の生産、農業経営がなされており、高い生産額を誇っている。

2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数 24人（うち、認定19人、女性1人）
- (2) 推進委員数 48人（うち、認定22人、女性0人）
- (3) 事務局体制 29人（専任29人）

3 掲げた目標

農地利用最適化推進チームによる農地利用の最適化の推進のため、チームでの組織活動を強化する。

4 目標達成に向けた取組み（運動）の内容

農地利用最適化推進チームのスムーズな活動のため、チーム内での役割分担を明確にした。さらに、人・農地プランの実質化に向けたアンケート調査や地図作成に着手し、担い手への集積・集約化のための活動を実施した。

農業委員会への申請・申出等がなく貸借されている農地の洗い出しのため、高齢者が耕作者となっている農地に色付けした地図を元に、現状の把握を行った。



【人・農地プラン話し合いの様子】

5 取り組みの成果

実質化された人・農地プラン作成のために、JA、農区長等にも協力をいただきながらアンケート回収や取りまとめ等を行った。

本市では、市内を9つの地区に分け、それぞれ農業委員、農地利用最適化推進委員が中心となり活動を行っているが、一部の地区では地図化の作業が終わり、他の地区についてもアンケートの回収と集計を行っている。

農業委員会への申請または、申し出等がなく貸借されている農地への指導については、実際に地図上で色分けされた農地を見ることによって地域の高齢耕作者の状況を把握することができた。担い手の借り入れにより、新規集積は493ha増加した。

6 課題と今後の方針等

引き続き、実質化された人・農地プランの作成に向けてアンケート調査や地図作成に取り組み、これまでプランが策定されていなかった集落について実質化したプラン策定を進めていく。

耕作者の高齢化や条件不利地の管理不足により、遊休農地や耕作放棄地等は増加しており、農地中間管理機構と連携して遊休農地を減らすため集積・集約化を進めていく。また、耕作放棄地の非農地化について総会で承認された農地について所有者及び関係機関へ通知をおこなう。農振地域の非農地化については農政部門と連携し事業計画に支障がない部分については非農地化を進める。

また、再生可能な農地は県耕作放棄地解消事業を利用し耕作可能な農地へと再生する。